

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：34101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13398

研究課題名（和文）田山花袋周辺における外国文学書の流通と受容に関する研究

研究課題名（英文）Research on the distribution and acceptance of foreign literature around Tayama Katai

研究代表者

小堀 洋平 (Kobori, Yohei)

皇學館大学・文学部・准教授

研究者番号：30706643

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：田山花袋とその周辺に位置する文学者たちのあいだで、外国文学書がいかに流通し、受容されたのかを明らかにすることができた。世界規模での文学書の流通のあり方のマクロレベルでの把握を背景としつつ、文学者の日常における書物の貸借というミクロレベルでの調査を実施することにより、個別の作家研究だけでは見えなかった、文学場を介した集団的な外国文学受容の実態が解明された。本研究により、19-20世紀転換期における花袋・島崎藤村・太田玉茗らの集団における外国文学受容の実態、とりわけトルストイ・ドストエフスキイ・メレシコフスキイといったロシア文学の受容について、実証的な研究成果を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本近代文学史において自然主義の果たした役割はきわめて大きく、その代表的作家である田山花袋は、文学史的に重要な作家である。花袋とその周辺作家たちの文学が海外文学の強い影響の下に形作られたことはよく知られているが、その影響の実態には未解明の部分も多かった。本研究では、花袋と周辺作家が具体的にどのような本をとって海外文学を受容したのかを、書物の国際的流通というマクロな視点と、作家間の書物の貸借というミクロな視点との双方から検討することで、実証的に明らかにした。本研究の成果は、各国語文学を一般市民が「世界文学」としてどのように享受できるかという、今日の社会的課題に対しても意義をもつものである。

研究成果の概要（英文）：In this research, we focused on the distribution and acceptance of foreign literature around Japanese naturalist Tayama Katai and his colleagues at the turn of the 20th century. Both by the macro-level research on the international distribution of literary works and the micro-level research on the lending and borrowing of books between writers, the situation of collective acceptance of world literature around Katai have been elucidated. We conclude that the influences from Russian authors like Tolstoi, Dostoevskii, and Merejkovskii are especially important to the genesis of Japanese naturalist literature.

研究分野：日本文学

キーワード：田山花袋 島崎藤村 太田玉茗 トルストイ ドストエフスキイ メレシコフスキイ 書物流通 比較文学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本自然主義の代表的作家として知られる田山花袋は、欧米を中心とする外国文学を意欲的に摂取したことで知られており、これまで日本国内で実証的な比較文学研究の蓄積がなされてきた。(山川篤『花袋・フローベール・モーパッサン』正統(1993、1995)および山本昌一『ヨーロッパの翻訳本と日本自然主義文学』(2012))また、十数年来、国外においても新たな側面から花袋の文学的営為に迫ろうとする動向が盛り上がりを見せており、英語圏・ドイツ語圏で花袋を対象とする研究書が刊行された。(Werner, Verena. *Das Verschwinden des Erzählers: Erzähltheoretische Analysen von Erzählungen Tayama Katais aus den Jahren 1902-1908.* (2006)および Henshall, Kenneth G. *In search of Nature: Japanese writer Tayama Katai.* (2013))

このように、研究開始当初、花袋をめぐる研究、とりわけその比較文学的研究は世界的に隆盛の観を呈していたが、将来的にそれを伝統的作家研究の枠組みに収斂させるのではなく、より広い視野に立った文学史研究の方向に展開させることが求められる状況であった。そうした状況を受けて、本研究は、国際的な文学書流通のマクロレベルでの状況を前提としつつも、個々の文学者間の外国文学書の貸借といったミクロレベルの事象に注目することで、花袋とその周辺における集団的な海外文学受容の実態を解明するために構想されたものであった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、花袋とその周辺における外国文学書の流通と受容の実態(ある書物をいつ、どこで、誰が購入したか。そして、いつ、どこで、誰に貸し、借りたか。また、彼等はそれをどのように読んだか)をできるかぎり網羅的に整理し、今後の比較文学研究の便を図り、さらには花袋周辺における文学場のあり方を考察する基礎資料を整備することにある。

対象時期としては、さしあたり花袋の出発期から自然主義期、すなわちおおよそ1890~1910年の20年間が想定された。この期間は、花袋が硯友社周辺作家、『文学界』同人、自然主義系作家といった多様な集団とのあいだに外国文学書の貸借を通じて交流を行った時期にあたり、その交流の実態の解明を通して、様々な集団の消長と離合集散に現れる文学場の変遷を辿ることが可能になると期待されたからである。

資料としては、花袋による最初の翻訳書で後の花袋の文体形成にも重大な影響を与えたとされるトルストイ原著『コサアク兵』の翻訳底本と稿本、『アラビアン・ナイト』中の一話を翻訳した新出資料「小法官」稿本を扱うことが予定された。

このように、本研究は、花袋をめぐる新出資料や新事実の発見といった個別的成果を取り込みつつも、より広範な文学場の解明を志向するものとなっていたのである。

3. 研究の方法

本研究では、田山花袋記念文学館所蔵花袋旧蔵洋書の調査によって、花袋周辺における外国文学書の流通と受容を検証するための実証的基盤の整備を図った。特に、トルストイ、ドストエフスキイ、メレシコフスキイといったロシア文学関連書の調査を重点的に実施した。

また、『コサアク兵』や「小法官」といった翻訳作品の花袋自筆稿本を調査・分析することで、花袋による外国文学翻訳の生成過程と傾向性を検証した。

さらに、島崎藤村や太田玉茗といった花袋周辺作家による外国文学の受容をめぐる記述を相互に比較しつつ整理することで、書物の貸借によって媒介されたかれらの集団的な外国文学受容の実態を検証した。

よりマクロなレベルでは、丸善より刊行された雑誌『学鑑』に毎号掲載された新着洋書目録について、特に花袋周辺における外国文学の受容が文学史的に重要な意義をもったと考えられる、創刊(1897)から約20年間の期間を中心として調査を実施した。

本研究の方法上の特徴は、花袋周辺の文献の調査を基礎としつつも、マクロレベルでの書物流通から、ミクロレベルでの作家間の書物の貸借関係、さらには各作家による翻訳の過程に至るまで、幅広い調査・研究を実施した点にある。

4. 研究成果

(1) 花袋の作品形成における外国文学受容の全般的意義

花袋の主要な小説の形成に際して外国文学受容の果たした意義について、実証的な比較文学の方法により明らかにした。その成果は、報告者のこれまでの研究業績を基礎としつつ、本研究による補足・修正を加えた単行書『田山花袋 作品の形成』(2018)にまとめられた。本書は、1890年代初頭の出発期から1916年の『時は過ぎゆく』にいたる花袋の重要作品に対して海外文学の与えた影響を、幅広く検証するものとなっている。本書は、『日本近代文学』『日本文学』『国文学研究』『花袋研究学会々誌』といった学会誌掲載の書評によって学界に広く紹介され、日本近代文学研究に一定のインパクトを与えたものと評価される。なお、このほかに、論文「田山花袋「髪」とイプセン「ロスマルスホルム」 水と死のモチーフを中心に」(2018)では、花袋の長編小説「髪」の象徴的手法にイプセンの戯曲「ロスマルスホルム」の影響が認められることを明らかにした。

(2) 花袋におけるドストエフスキイ受容の実態

学会発表「花袋のドストエフスキー受容」(2018)を基礎として、その内容を発展的に拡大させた論文「『平面描写』論以前における田山花袋のドストエフスキー受容 「熱烈なる思想」と『自動的自然主義』」(2019)と「一九一〇・二〇年代における田山花袋のドストエフスキー受容 史的意義肯定への道」(2019)を発表した。これらに加えて、「『平面描写』論提唱期における田山花袋のドストエフスキー受容 語り・プロット・主人公」(2020)も発表予定である。従来、花袋はドストエフスキーの文学に否定的で、影響関係もほとんどないと見なされていたが、これらの論考は花袋の評論・随筆類におけるドストエフスキーへの言及の網羅的調査によって、そうした見解への反駁を試みたものである。

(3) 平面描写論の形成における外国文学受容の役割

これは当初の研究計画には入っていなかったものだが、上記のドストエフスキー受容の調査・研究の過程で、花袋の代表的文学論である平面描写論の形成において、ドストエフスキー『罪と罰』の翻訳者内田魯庵との論争が重要な役割を果たしたことが明らかとなった。この点については、「平面描写」をタイトルに含む上記2論文で言及したほか、特に「田山花袋における『平面描写』論の一基盤 短編小説『不安』に触れつつ」(2018)で重点的に整理した。この論文は、従来ナラトロジーの方法によって論じられることの多かった平面描写論について、新たに比較文学的方法からアプローチすることでその新たな側面に照明を当てたものであり、報告者は今後、同時期の他ジャンル・他流派の文学理論へと比較対象を拡大して研究を継続する展望を有する。

(4) 花袋周辺における外国文学書流通の実態

花袋と島崎藤村の小説家としての本格的出発にあたって、ロシアの評論家メレシコフスキーの『人および芸術家としてのトルストイ』の貸借が大きな役割を果たしたことを、論文「花袋・メレシコフスキー・藤村 『人および芸術家としてのトルストイ』の貸借をめぐる基礎資料」(2019)で明らかにした。また、詩歌ジャンルにおいて初期花袋と親密な交流のあった太田玉茗の詩歌論について、ドイツの観念論哲学者E・ハルトマンの美学の影響、特に哲学史家ファルケンベルクによる紹介をとおした影響が認められることを、学会発表「歌論を西洋美学で再解釈する 太田玉茗『桂園和歌論』から田山花袋の描写理論へ」(パネル「方法としての比較文学」)日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会、2019)にて指摘した。なお、その調査の過程で発見された新出資料について、「田山花袋『君我日記』 地方文芸誌『国風』掲載の紀行文」(2020)で報告した。

(5) 花袋の翻訳過程の事例研究

「田山花袋はトルストイ原作『コサアク兵』をいかに訳したか ロマン主義化と『自然』の問題」(2020)および「田山花袋『小法官』翻訳稿本 『アラビアン・ナイト』受容の一資料」(2019)の2論文において、それぞれ花袋自筆の翻訳稿本を分析し、その翻訳過程の一端を明らかにした。なお、後者の『小法官』翻訳稿本は従来まったくその存在が知られていなかったものであり、高い資料的価値を有する。

(6) 研究成果の国際レベルでの発信と、地域に根ざした市民への還元

上記の研究成果について、専門性の高い部分に関しては、(4)に記した国際研究集会での発表を行うなど、国際レベルでの問題提起を試みた。その一方で、一般市民への成果の還元にも留意し、講演「田山花袋『志摩めぐり』の風景」(三重県生涯学習センター・皇學館大学・志摩市、2017)および「田山花袋『南船北馬』に見る熊野の風景 「北紀伊の海岸」と『熊野紀行』」(早稲田大学オープンカレッジ東紀州地域振興公社協力講座、2018)を行って地域に根ざしたかたちでの本研究内容の紹介を試みた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小堀 洋平	4. 巻 (31)
2. 論文標題 花袋・メレシコフスキイ・藤村 『人および芸術家としてのトルストイ』の貸借をめぐる基礎資料	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 田山花袋記念文学館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小堀 洋平	4. 巻 12(9)
2. 論文標題 一九一〇・二〇年代における田山花袋のドストエフスキイ受容 史的意義肯定への道	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文藝と批評	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小堀 洋平	4. 巻 (36)
2. 論文標題 「平面描写」論以前における田山花袋のドストエフスキイ受容 「熱烈なる思想」と「自動的自然主義」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 花袋研究学会々誌	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小堀 洋平	4. 巻 32
2. 論文標題 田山花袋はトルストイ原作『コサアク兵』をいかに訳したか ロマン主義化と「自然」の問題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 田山花袋記念文学館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小堀 洋平	4. 巻 35
2. 論文標題 田山花袋「髪」とイブセン「ロスメルスホルム」 水と死のモチーフを中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 花袋研究学会々誌	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小堀 洋平	4. 巻 64(7,8)
2. 論文標題 田山花袋における「平面描写」論の一基盤 短編小説「不安」に触れつつ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 解釈	6. 最初と最後の頁 52-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 小堀 洋平
2. 発表標題 歌論を西洋美学で再解釈する 太田玉茗「桂園和歌論」から田山花袋の描写理論へ
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小堀 洋平
2. 発表標題 花袋のドストエフスキー受容
3. 学会等名 花袋研究学会第99回例会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 小堀 洋平	4. 発行年 2017年
2. 出版社 翰林書房	5. 総ページ数 220
3. 書名 田山花袋 作品の形成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----